

令和7年度中期運営計画の評価（機関評価）結果

評価年月日：令和7年7月29日

1 試験研究

【項目別の実績値及び評価結果】（評価委員数 8名）

重点推進事項名と指標名	目標値 (/年)	実績値 (R6年度)	総合評価	各評価人数（人）			
				AA	A	B	C
① 農産物の付加価値向上に繋がる新品種・新技術の開発 指標名：所得10%以上の向上につながる研究成果数	4成果	1成果	A	0	8	0	0
② ICT等先端技術の利活用による生産性向上と水田高収益化に資する新技術の開発 指標名：生産性向上により売上1億円の達成実現につながる研究成果数	2成果	1成果					
③ 持続可能な農業を実現する有機農業等の推進や気候変動に対応した新技術の開発 指標名：有機農業等の推進や気候変動に対応した研究成果数	3成果	6成果					

【主な意見】

- ・ 定量的な指標としては、目標9成果に対して、実績8成果と未達成ということになるが、3つの研究重点推進事項のうち、③の「持続可能な農業を実現する有機農業等の推進や気候変動に対応した新技術の開発」については、目標値を大きく上回っており、また、過年度の実績等も勘案すると、着実に取組を実施したと判断される。
- ・ ①の「農産物の付加価値向上に繋がる新品種・新技術の開発」は、農業研究の中核的な分野であり、そこにおいて1成果というのはやや寂しい印象を受ける。次年度以降、特に、この分野での成果創出を期待したい。
- ・ 参考として、各重点推進事項別の試験課題数や予算額が示されると成果数の評価がしやすいため、今後検討してほしい。

2 試験研究以外の取組

【項目別の実績値及び評価結果】（評価委員数 8名）

重点推進事項名と指標名	目標値 (/年)	実績値 (R6 年度)	総合評価	各評価人数（人）			
				AA	A	B	C
① 成果の普及活用促進 指標名：普及目標を達成した「普及に移す成果」数	7 成果	7 成果	A	0	7	1	0
② 広報・情報提供 指標名：研究の取組・成果等に関するマスコミへの情報提供数	18 件	23 件	AA	7	0	1	0
③ 他機関との連携 指標名：外部機関との共同研究割合	30%	32%	A	0	8	0	0
④ 研究予算の確保 指標名：戦略的な予算を用いた新規研究課題数	10 課題	6 課題	B	0	1	7	0
⑤ 内部人財育成 指標名：学会等への論文投稿数	20 報	14 報	B	0	2	6	0

【主な意見】

- ・「普及に移す成果」の目標値は達成しており、着実に成果は得られている。目標達成の困難度を推し量るために、普及目標に達しなかった成果数の提示についても検討してほしい。また、「普及に移す成果」として示すのであれば、経営的なデータは可能な限り示すようにしてほしい。
- ・広報・情報提供を積極的に行った結果、目標値 18 件を大きく上回り、過去 3 年間で比較しても多くの成果を残すなど、優れたパフォーマンスを実現している。農業が大いに注目されている中、茨城の農業にとっても消費者にとっても重要な情報発信になっていると評価する。
- ・約 3 割の課題において共同研究を進めており、着実な取組がなされている。技術協力なしでは解決困難な課題もあり、外部機関との連携は積極的に取り組んでほしい。また、人事交流など平素より緊密な関係性を構築するとともに、他機関から参画を望まれるような人材育成を期待したい。
- ・研究予算の確保は未達成であり、今後、民間企業を含めた外部機関との連携強化など、外部予算の獲得を期待する。なお、本項目の目標値として課題数が設定されているが、予算確保という目的を考えれば、予算額等も考慮した指標や評価でもよいのではないと思われる。
- ・論文投稿の目標は未達成である。近年、論文の執筆・投稿よりも普及成果の発出が重視されてしまうが、成果は学術的な裏付けがあってこそ説得力を持つのであり、審査のある雑誌等に投稿することは、研究者としての資質を磨く上で不可欠である。論文執筆への働きかけは、繰り返し実施してほしい。